



確かな学力の向上をめざして【3月】

■ 長期欠席・不登校児童生徒へ対応について

児童生徒の長期欠席や不登校は、中部地区の生徒指導上の重点課題です。課題解決に向けて、各校で未然防止、早期対応、学校復帰の取組が進められているところですが、新年度を迎えるにあたり、具体的な支援を検討する場も必要になってきます。

個別の支援について検討する会で 児童生徒を深く理解し、具体的な支援を検討する



対象となる子どもに関わりのあるメンバーが、子どもに関する情報を共有し、学校としての支援方針を検討していくことが、効果的な支援を進めるためのポイントです。

話し合う内容は…

①アセスメント（見立て）をする

- ・児童生徒に関する情報を共有し、様々な立場からの助言を受けながら、状況を整理をします。
- ・「出席の状況」「生育歴」「家庭の状況」「各種検査の結果」「入学前の状況」「学校生活の様子」などの情報をもとにアセスメントしていきます。

②支援目標を決める

- ・長期目標と短期目標を考えます。



児童生徒の行動の背景を詳細に捉えていくことで、より適切な支援につなぐことができます。

③具体的な動きを決める。

- ・誰が、誰に何をするかを整理します。

保護者に伝えることも確認しておきます。

会議のメンバーは…

- ・管理職 ・担任 ・生徒指導担当 ・教育相談担当
- ・養護教諭 ・特別支援担当
- ・スクールカウンセラー（SC）
- ・スクールソーシャルワーカー（SSW）等

教員、SC、SSWなどが、それぞれの専門性を発揮することで、児童生徒にとってより適切な支援が見えてきます。

【スクールカウンセラーの役割】

◆心理の視点から児童生徒を見立て、支援策を立案します。児童生徒本人の不安や悩みに応じた支援を提案します。

【スクールソーシャルワーカーの役割】

◆福祉の視点から支援策を立案します。児童相談所、自治体の福祉部局などの関係機関からの支援について調整・仲介・連携の役割を担っています。

「個別の支援について検討する会の良さは？」～先生方の声～

- 情報を整理することで、児童生徒の行動の背景に何かがあるか気づくことができました。
- 今まで思いつかなかった、新しい支援の方法を見つけることができました。
- チームで検討し対応するため、関係者が一貫した支援ができ、児童生徒の安心につながると思いました。



※会議で協議することで、学校の支援体制を整えることはもちろんのこと、様々な立場からの見方や考え方を知ることができるため、教員一人一人の指導の幅を広げることにもつながります。

※学校と家庭との信頼関係は、効果的な支援を進めるためのベースになります。普段から保護者とコミュニケーションを図りながら、良好な関係をつくっておくことが大切です。